

第28回 これからの学術情報システム構築検討委員会 議事要旨

1. 日時：2021年1月25日（月）10：00～12：00

2. 場所：オンライン会議

3. 出席者：

（委員）

小山 憲司 中央大学 文学部 教授

相原 雪乃 北海道大学附属図書館 事務部長

斎藤 未夏 東京海洋大学 学術情報課長

瓜生 照久 九州大学附属図書館 事務部長

粟谷 禎子 公立はこだて未来大学情報ライブラリー

原 修 立教大学図書館 副館長

飯野 勝則 佛教大学図書館 専門員

近藤 茂生 立命館大学図書館 学術情報部 次長

柴尾 晋 明治大学 学術・社会連携部生田図書館事務室副参事

大向 一輝 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

福島 幸宏 東京大学大学院情報学環 特任准教授

塩崎 亮 聖学院大学基礎総合教育部 准教授

小野 亘 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長

片岡 真 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 副課長

（陪席）

木下 聡 国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長

（事務局）

阪口 幸治 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 係長

村上 遥 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 係長

<配付資料>

委員名簿

第27回 これからの学術情報システム構築検討委員会 議事要旨

1. NACSIS-CATILL 参加館向け図書館システムアンケートの実施について
- 2-1. 2020年度システムモデル検討作業部会活動報告
- 2-2. 2021年度システムモデル検討作業部会活動計画（案）
- 3-1. 2020年度活動報告および2021年度活動計画
- 3-2. これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針案について

- 3-3. 次年度システムワークフロー検討作業部会の班構成について（案）
- 4. 学術情報「共有」の将来像
- 5-1. 2020年度これからの学術情報システム構築検討委員会活動報告（案）
- 5-2. 2021年度これからの学術情報システム構築検討委員会活動計画（案）
- 6-1. 国立国会図書館及び科学技術振興機構との連携について
- 6-2. 次期目録所在情報サービスの検討状況について
- 6-3. フォーラム・セミナー等の参加状況について
- 7. 2020年度「JUSTICE 提案書情報のデータ共有に関する実証実験」について
- 8-1. 「図書館関係の権利制限規定の見直し（デジタル・ネットワーク対応）に関する中間まとめ」について
- 8-2. 会議資料等の国立情報学研究所機関リポジトリ（仮称）への登録について

<参考資料>

- 1. これからの学術情報システムの在り方について（2019）
- 2. システムモデル検討作業部会 2020年度活動計画
- 3-1. システムワークフロー検討作業部会 2020年度活動計画
- 3-2. 統合的発見環境班図書館間のリソース共有のための ILL 課題整理
- 3-3. 統合的発見環境班 ILL 料金決済方法のバリエーション
- 4. 2020年度これからの学術情報システム構築検討委員会活動計画
- 5. 2020 年から委員会図書館システム及び関連システムに関する調査
- 6. 2020 年から委員会図書館システム及び関連システムに関する調査結果（非公開）
- 7. 国立情報学研究所リポジトリ（仮称）運用指針（2019年3月14日制定）（非公開）

4. 議事：

(1) 図書館システムアンケートの結果について

相原委員より、資料1について報告があった。

主な質疑・意見交換は次のとおりである。

- 今回実施したアンケートは、①現状を把握し、②それを基にどのような学術情報システムを構築していくかを検討するための材料とする、という2つの観点がある。モデル部会は、今後どのようにアンケートを活かしていくつもりか。
- 小規模大学から多くの回答が得られ、現状を把握できるデータを集められた一方、単純集計のみで分析を進めると、本委員会が検討してきた学術情報システムの高度化という観点の必要性が相対的に低下する可能性がある。分析にあたっては、大学の規模、それぞれが抱える課題を踏まえ、考察していきたい。
- アンケートの集計方法について1/28までに見直し箇所について委員から

の意見を取りまとめることとした。

- ▶ 有効回答数について、現在調整中のため変更の可能性がある。

## (2) システムモデル検討作業部会の活動について

相原委員より、資料 2-1、2-2 について報告があり、承認された。

主な質疑・意見交換は次のとおりである。

- ▶ 新たな図書館システム・ネットワーク運営にあたり、コミュニティを形成し、新たな運営体制を構築することを検討している。そのスケジュールは、資料 2-1 の別紙のとおりである。
- ▶ 新運営体制設置における個別課題は、引き続き本委員会で意見交換を行い、それをもとにシステムモデル検討作業部会で再検討する。検討結果は次年度初回の委員会にて再度、審議する。

## (3) システムワークフロー検討作業部会の活動について

飯野委員より、資料 3-1、3-2 について報告あり、承認された。

なお、資料 3-2「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針について」については、2021 年秋に向けて作成することとなった。

事務局より、資料 3-3 について報告があった。

主な質疑・意見交換は次のとおりである。

- ▶ 資料 3-1 の 2.(ア)④は、メタデータ連携のハブとして図書館を活用していくという点で、本活動は本委員会における議論だけでなく、広く公開して今後の議論に繋げていくほうが良い。
- ▶ 資料 3-2 に具体案を盛り込み、本委員会としての指針を示すようにする。

## (4) 「第 21 回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」におけるトピックレクチャーについて（報告）

飯野委員より、資料 4 について報告があった。

主な質疑・意見交換は次のとおりである。

- ▶ 資料 4 について、「中央システム」は本質的には学術情報に関するデータ共有プラットフォームであり、1. 組織間のデータ共有、2. 組織と利用者のデータ共有を実現するのである、という構成にし、1 を集成的に取り組み、その成果を 2 に適用していくという考え方を最初に提示しておくかたちに修正してはどうか。
- ▶ 「学術情報」、「中央システム」などの言葉が意味するものが分かりやすいように調整したうえで、アプローチの手法を示す方向で検討する。

## (5) 委員会の活動について（審議）

事務局より、資料 5-1、5-2 に基づいて説明があった。本日の委員会での議論も踏

まえ、詳細を委員長と事務局にて調整し、今年度の活動報告および次年度の活動計画とすることで承認された。

(6) 国立情報学研究所の活動について

事務局より、資料 6-1～6-3 について報告があった。

主な質疑・意見交換は次のとおりである。

- ▶ 資料 6-2 について、「2020 年度の検証状況」について、検証作業の趣旨や目的など、本委員会での議論に関心を持つ人がだれでも理解しやすいように再構成する。

(7) 大学図書館コンソーシアム連合（ JUSTICE ）との連携について（報告）

事務局より、資料 7 について報告があった。

主な質疑・意見交換は次のとおりである。

- ▶ 次年度は本年度検証に参加した 7 機関に加え、参加機関を追加する予定があるか。
  - ▶ 現在のところ予定していない。

(8) その他

事務局より、資料 8-1、8-2 について報告があり、資料 8-2 について承認された。

以上